

れんがの煙突

2004 年の中越地震では、この珍しいレンガ造りの煙突の修理に取り組み、地域の人々に感動を与えました。地域は広範囲に及ぶ被害から復興しようとしており、明治時代(1868-1912)から残っている地域最後の一例である煙突を復元しました。

1831 年創業の醤油メーカー「越のむらさき」がこの煙突を建てました。建設された時期は正確には不明ですが、1933 年に完成した現在の構造の残りの部分よりも前のものです。

18 世紀後半から 19 世紀半ばにかけて、醤油メーカーでは、生産工程の中でこのような大規模な煙突を石炭焼成炉と組み合わせて生産することは多くありました。最盛期には一日中黒煙を上げ、地域のランドマークとして親しまれていました。

醤油の製造工程や技術の進歩により、石炭の使用が不要となり、煙突や炉は不要となりました。現在では、以前の高さの約 3 分の 2 になっています。